

RT JOURNAL

祝！復刊！記念すべき復刊号では、大盛況のうちに幕を閉じた
 ～東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会～でアスリートに贈られたメダルについて、
 我々も実は関わっていましたこと、ご存じでしょうか？この場で少しご紹介させていただきます。

リーテックでは、2017年12月1日から「私たちのメダルプロジェクト」を開始していました。
 各拠点から集められた不要家電は、オリンピックのメダルプロジェクトへ無事に寄付されました。

その後はどうなったの？と気になる方も多いかとおもいますので、メダルの製作過程やデザインに関わる
 ミニ情報をお届けいたします。

～「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」～

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」は「東京2020参画プログラム」の公認プログラムとして
 全国自治体を含め広く公募をされたプログラムとなります。リーテックもこれまでプロジェクト協力事業者である
 リサイクラー様経由でプロジェクトへの参加をさせていただきました。

社内では「メダル！それはアスリートの汗と涙の結晶！私たちが作ります」をスローガンとして掲げ、
 2017年12月1日から2018年6月30日の期間、全拠点で不要家電の回収を行い、最終的に
 315台の寄付を行うことができました！

過去の記事でも取り上げましたが、各拠点ともに目標台数を決め、
 積極的に取り組んできました。このプロジェクトに際し、リーテック社員
 はもちろん、家族の皆さま、友人の皆さま、パートナー企業の
 皆さまのご協力のもと、多くの不要家電を集めることができました。
 この場を借りまして、お礼を申し上げます！

不要家電、各拠点のオリジナル回収BOX ↓

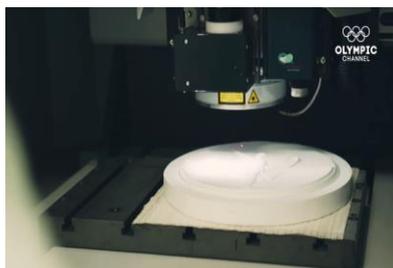


～東京2020メダルを製造した熟練工の技術～

- ①東京2020オリンピック・パラリンピックでアスリートに贈られた東京2020メダルは約5000個。
 その製造を独立行政法人造幣局(以下、造幣局という)が請け負っています。
 造幣局は、貨幣のほか、勲章や褒章、また、それらの製造技術を生かした他の金属工芸品を製造する事業を
 行っており、東京1964大会、札幌1972大会、長野1998大会と過去に日本で開催された3大会でもメダル
 を製造されてきました。
- ②チーム4人で作業をして製造できるメダルは1日15個から20個ほど。苦労したのは「すべてを同じ品質にしなけ
 ればいけないこと」だったそうです。1個目と5000個目に違いがあってはいけません。加えて各メダルの輝きも同じ
 にする必要があり、「何度も試行錯誤を繰り返した」と言います。

知っていましたか？

オリンピックのメダルは直径85mm、厚さは最小部分で7.7mm、最大部分で12.1mm。重さは金が約556g、銀が約550g、銅が約450g
 パラリンピックのメダルは直径85mm、厚さは最小部分で7.5mm、最大部分で10.7mm。重さは金が約526g、銀が約520g、銅が約430g
 とそれぞれに異なります



～メダルに込められた熟練工の技術と思い～

東京2020組織委員会は、このメダルを製造するにあたり、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を実施しました。これは、全国から使用済みの携帯電話などの小型家電を提供してもらい、そこから集めたりサイクル金属を原材料に、メダルを製造するプロジェクトです。オリンピック・パラリンピックでは初の試みで、東京2020組織委員会は、このプロジェクトを通じて、小型家電リサイクルの定着と環境にやさしい持続可能な社会が、東京2020大会のレガシーとなることを目指しています。それと同じ意味で、メダルを製造する造幣局の技術もまた、後世に受け継がれていくレガシーとなっていくのかもしれない。

今回、メダル製造に携わった者として、富岡さんは東京2020大会に向けてこんな思いを抱いています。「日本で開催される大会なので、外国の方にも日本に良いイメージを持ってもらい、のちのち語り継がれる素晴らしい大会になってほしいです。その中に自分たちが製造したメダルも世界中に記憶されるといいなと思っています。」



死力を尽くして勝ち得たメダルはアスリートにとって最高の荣誉です。そしてそのメダルには、熟練工の卓越した技術や思いが込められていることも、東京2020大会の見どころの1つとっていいかもしれません。

～東京2020オリンピック・パラリンピックデザインメダルデザイン～

オリンピックとパラリンピックでメダルのデザインに違いがあるのはご存じでしたでしょうか？
デザインコンセプトもそれぞれとても深い意味があるようです。

オリンピック

東京2020オリンピックメダル・デザインコンセプトアスリートには栄光の部分だけでなく、勝利に至るまでの日々の努力が必ずあります。スポーツで競い合い、頑張っている人が称えられる世界になってほしいという思いを込めて、多様性を示す、様々な輝きをもたらすデザインです。裏面は、東京2020入賞メダルデザインコンペティションでご応募いただいた作品から選定され、表面は、国際オリンピック委員会により、パナシナイコスタジアムに立つ勝利の女神ニケ像、東京2020オリンピック競技大会の正式名称およびオリンピックシンボルの要素を含めた構図と規定されています。

<表>



<裏>



選手の栄光を称えるリボンのデザインには、東京2020大会を象徴する藍と紅を使用し、日本らしい組市松紋を用いたデザインは祝祭感とともに多様性と調和を表現しています

パラリンピック

「扇の要を中心として生み出される新しい風は人々に熱気を与え、また新たな風を生み出す原動力となる」
— 人々の心を束ね、世界に新たな風を吹き込む「扇」をモチーフにしたデザイン。

金・銀・銅メダルの違いが触れて分かるよう、金メダルには1つ、銀メダルには2つ、銅メダルには3つ、円形のくぼみをメダル側面に施しています。

このくぼみ加工は、大会史上初めての仕様となります。

<表>



<裏>



視覚障がいのある方が、手で触れることで順位がわかるように、裏側にシリコンプリントで金メダルには1つ、銀メダルには2つ、銅メダルには3つの凸の加工を施しています

～NGOジョイセフ様へのチャリティー活動のご報告～

リーテックのチャリティー活動としてNGOジョイセフ様との取り組みがありますが、その報告をさせていただきます。主にジョイセフ様で回収された携帯電話（フィーチャーフォン）をセンターにて破砕処理を行い、その後、金属リサイクルを行った成果をジョイセフ様に寄付させていただいております。

【活動実績】

FY21年度：¥87,010をご寄付させていただきました。

寄付用途として、日本では被災で孤立し女性への支援を中心に援助を行っており、海外では、アフリカなど途上国に対して消毒剤の提供やクリニック運営を行っています。



～NGOジョイセフ様のご紹介～



世界の妊産婦と女性を守る

公益財団法人ジョイセフ様は女性のいのちと健康を守るために活動している国際協力 NGO です。リーテックは NGO ジョイセフ様が集められた電子機器を引き取り、データが含まれているIT/モバイル機器を適切に破砕処理し、再資源化した利益を還元、女性の支援活動の資金として活用していただくお手伝いをしています。

【取り組みのご紹介】

携帯電話やその他の電子機器には希少金属が多く含まれています。ジョイセフ様との取組みでは、貴重な資源を有効活用できるだけでなく、収益金を女性支援活動に活用していただくため、不要電子機器を送るという1つのアクションで「金属リサイクル」と「女性支援」の2つの社会貢献を行なっています。



～守口センター 地域美化活動始動！～

CSR活動の一環として、守口センター（MRC）で地域美化活動が開始しました！守口センターの所在地は、マンションや病院、学校やスーパー等が近くにある、生活に根付いた位置環境にあります。センター周辺の道路は、通勤通学や小さな子供の送り迎え等、様々な人が行き交う場所となっています。美化活動により、ゴミの無い綺麗な道路を維持する事が地域貢献へ繋がり、またセンター付近で活動を行うことにより、地域の方とのコミュニケーションも生まれ、リーテックが地域社会により一層馴染んでいけるのではと考えています。



腕章デザイン



編集
後記

RT JOURNALを最後までお読みいただき有難うございます。様々な方のご協力の元、無事に発行することができました。これからもリーテックのCSR活動をご紹介しますので、次回もお読みいただくと嬉しいです。

編集長：塩澤 竜也